

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	単位型投信／海外／債券	
信 託 期 間	約 4 年10カ月間（2014年11月18日～2019年 9 月 6 日）	
運 用 方 針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ日本企業外債マザーファンド 2014－11の受益証券
	ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
マザーファンドの運用方法	①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等（劣後債を除きます。以下同じ。）に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。 ②運用にあたっては、以下の点に留意します。 イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組入れられるわけではありません。 ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デューレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。 ハ. 債券の格付けは、取得時において B B B 格相当以上（R & I、J C R、S & P、フィッチのいずれかで B B B－以上またはムーディーズで B a a 3 以上）とします。 ニ. ポートフォリオの修正デューレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。 ※ベビーファンド「為替ヘッジあり」においては、保有実質外貨建資産について、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	
組 入 制 限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10% 以下
分 配 方 針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれが多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ日本企業外債ファンド
(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)
2014－11

運用報告書(全体版)
第 2 期
(決算日 2015年 9 月 8 日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし）2014－11」は、このたび、第 2 期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託
Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0 1 2 0－1 0 6 2 1 2
（営業日の 9：00～17：00）
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<2696>
<2697>

★ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり） 2014－11

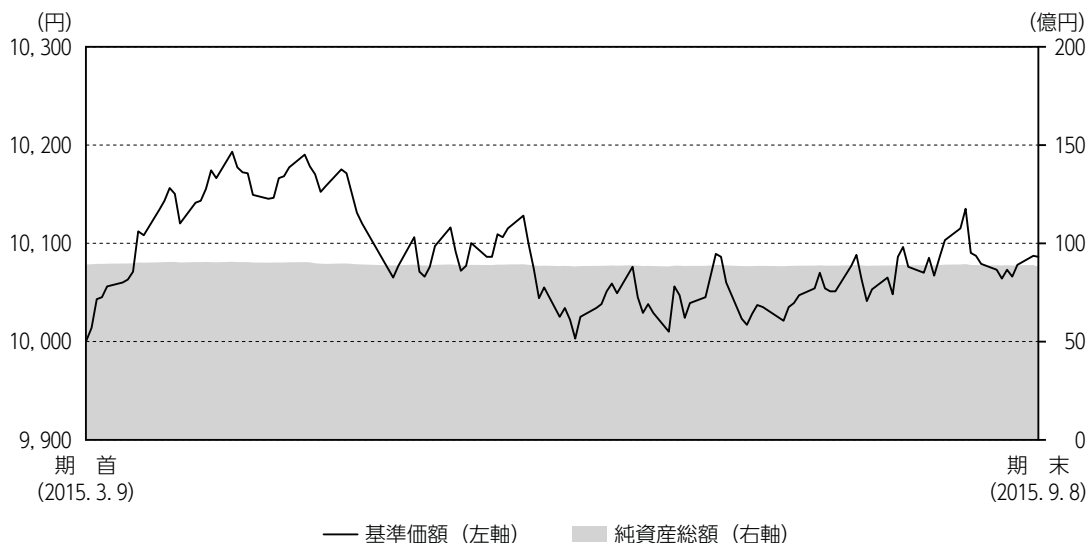
設定以来の運用実績

決 算 期	(分配落)	基 準 価 額			受 益 者 利 回 り	公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	元 残 存 本 率
		税 込 分 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定 (2014年11月18日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1 期末 (2015年 3 月 9 日)	10,001	45	46	0.5	1.5	97.3	—	100.0
2 期末 (2015年 9 月 8 日)	9,996	90	85	0.8	1.6	94.4	—	98.8

(注 1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
(注 2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
(注 4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



（注）期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

期 首：10,001円

期 末：9,996円（分配金90円）

騰落率：0.8%（分配金込み）

■基準価額の変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を通じて、日系企業が発行する外貨建て債券に投資を行ない、利息収入を中心に収益を積み上げた結果、基準価額は値上がりしました。

ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり） 2014－11

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 券 先 物 率 比
		騰 落 率		
	円	%	%	%
（期首） 2015年 3 月 9 日	10,001	—	97.3	—
3 月末	10,143	1.4	96.7	—
4 月末	10,131	1.3	95.9	—
5 月末	10,115	1.1	97.3	—
6 月末	10,056	0.5	96.1	—
7 月末	10,051	0.5	97.2	—
8 月末	10,073	0.7	94.8	—
（期末） 2015年 9 月 8 日	10,086	0.8	94.4	—

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

○海外債券市況

米国の国債金利は低下しました。ユーロ圏の金利上昇や米国での大量の社債発行などを背景とした債券市場の需給の悪化等から米国債券市場は一時金利上昇しましたが、その後は原油安によるインフレ期待の低下や中国の景気減速懸念などから金利低下基調となりました。

日系企業の外貨建て債券については、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は全般的に拡大したものの、利回りは銘柄によってまちまちな動きとなりました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を高位に組入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なっておりま

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

米国債については、小幅な金利上昇を見込んでいます。利上げ期待が金利上昇要因となる一方、ユーロ圏の量的緩和が開始される中で、相対的に利回りの高い米国債への需要が強まる可能性は高く、金利の上昇幅は抑えられやすいと考えています。日系企業の外貨建て債券については、安定的な信用力を背景にスプレッドは縮小しやすい展開を想定しています。

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を高位に組入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、流動性が高く、利回りに妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は90円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益86,962,245円が、純資産額の元本超過額75,805,648円を超過しているため、経費控除後の配当等収益86,962,245円（1万口当り98.69円）を分配対象額として、うち79,300,473円（1万口当り90円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を高位に組入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なってまいります。

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 3. 10～2015. 9. 8)		
	金 額	比 率	
信託報酬	27円	0. 270%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 085円です。
(投信会社)	(16)	(0. 162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(10)	(0. 094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0. 009	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0. 005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	28	0. 279	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況
 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年3月10日から2015年9月8日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	—	—	448,907	480,000

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	8,541,926	8,093,018	8,470,153

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	8,470,153	95.0
コール・ローン等、その他	441,173	5.0
投資信託財産総額	8,911,326	100.0

- (注1) 評価額の単位未満は切捨て。
- (注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月8日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝119.42円です。
- (注3) ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11において、当期末における外貨建純資産(9,297,144千円)の投資信託財産総額(9,332,466千円)に対する比率は、99.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	17,332,385,114円
コール・ローン等	319,415,631
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11（評価額）	8,470,153,542
未収入金	8,542,815,941
(B) 負債	8,524,716,270
未払金	8,421,058,472
未払収益分配金	79,300,473
未払信託報酬	23,996,664
その他未払費用	360,661
(C) 純資産総額（A－B）	8,807,668,844
元本	8,811,163,669
次期繰越損益金	△ 3,494,825
(D) 受益権総口数	8,811,163,669口
1万口当り基準価額（C／D）	9,996円

- * 当期末の計算口数当りの純資産額は9,996円です。
- * 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は3,494,825円です。

■損益の状況

当期 自2015年3月10日 至2015年9月8日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	32,721円
受取利息	32,721
(B) 有価証券売買損益	97,610,737
売買益	532,189,762
売買損	△ 434,579,025
(C) 有価証券評価差損益	2,998,310
(D) 信託報酬等	△ 24,411,149
(E) 当期損益金（A+B+C+D）	76,230,619
(F) 前期繰越損益金	1,210,518
(G) 解約差損益金	△ 1,635,489
(H) 合計（E+F+G）	75,805,648
(I) 収益分配金	△ 79,300,473
次期繰越損益金（H＋I）	△ 3,494,825

- (注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。
- (注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
- (注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金（税 込 み）	90円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

《訂正のお知らせ》

作成対象期間の末日が2015年3月9日の交付運用報告書および運用報告書（全体版）につきまして、「1万口当りの費用の明細」の表の「項目の概要」における次の記載にて下線部が不要でした。お詫び申し上げますとともに、下線部を除いて読み替えますようお願い申し上げます。

「期中の平均基準価額（月末値の平均値）は10,072円です。」

★ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジなし） 2014－11

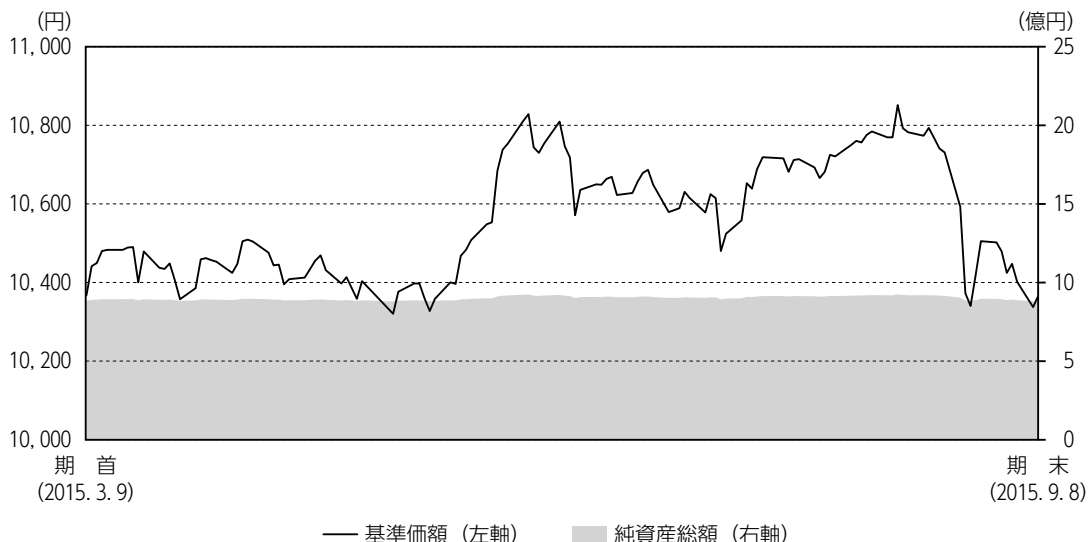
設定以来の運用実績

決 算 期	(分配落)	基 準 価 額			受 益 者 利 回 り	公 社 債 組入比率	債券先物 比 率	元 本 残 存 率
		税 込 分 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定 (2014年11月18日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1 期末 (2015年 3 月 9 日)	10,366	50	416	4.2	13.6	96.2	—	89.4
2 期末 (2015年 9 月 8 日)	10,264	100	△ 2	△ 0.0	5.1	97.0	—	89.4

(注 1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
(注 2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
(注 4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

基準価額等の推移について



（注）期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

期 首：10,366円

期 末：10,264円（分配金100円）

騰落率：△0.0%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を通じて、日系企業が発行する外貨建て債券に投資を行ない、利息収入を中心に収益を積み上げましたが、米ドルの対円レートが下落したため、基準価額はほぼ横ばいとなりました。

ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジなし） 2014－11

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 券 先 物 率 比
		騰 落 率		
	円	%	%	%
（期首） 2015年 3 月 9 日	10,366	—	96.2	—
3 月末	10,457	0.9	96.1	—
4 月末	10,357	△ 0.1	95.8	—
5 月末	10,750	3.7	97.2	—
6 月末	10,582	2.1	97.1	—
7 月末	10,718	3.4	97.0	—
8 月末	10,500	1.3	97.3	—
（期末） 2015年 9 月 8 日	10,364	△ 0.0	97.0	—

（注）期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

○海外債券市況

米国の国債金利は低下しました。ユーロ圏の金利上昇や米国での大量の社債発行などを背景とした債券市場の需給の悪化等から米国債券市場は一時金利上昇しましたが、その後は原油安によるインフレ期待の低下や中国の景気減速懸念などから金利低下基調となりました。

日系企業の外貨建て債券については、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は全般的に拡大したものの、利回りは銘柄によってまちまちな動きとなりました。

○為替相場

米国の利上げ期待の高まりなどからいったん米ドル高が進行しましたが、その後は中国による人民元の基準値切下げから世界経済への懸念が高まり、リスク回避の動きから円が買われる展開となりました。期首と比較すると米ドルは対円で下落となりました。

前期における「今後の運用方針」

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014-11」の受益証券を高位に組入れます。

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014-11

米国債については、小幅な金利上昇を見込んでいます。利上げ期待が金利上昇要因となる一方、ユーロ圏の量的緩和が開始される中で、相対的に利回りの高い米国債への需要が強まる可能性は高く、金利の上昇幅は抑えられやすいと考えています。日系企業の外貨建て債券については、安定的な信用力を背景にスプレッドは縮小しやすい展開を想定しています。

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

ポートフォリオについて

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014-11」の受益証券を高位に組入れました。

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014-11

日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、流動性が高く、利回りに妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は100円といたしました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額30,905,240円が、経費控除後の配当等収益8,815,505円を超過しているため、純資産額の元本超過額30,905,240円（1万口当り363.76円）を分配対象額として、うち8,495,960円（1万口当り100円）を分配金額としております。

《今後の運用方針》

○当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11」の受益証券を高位に組入れます。

○ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	(2015. 3. 10～2015. 9. 8)		
	金 額	比 率	
信託報酬	28円	0. 270%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 560円です。
(投信会社)	(17)	(0. 162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販売会社)	(10)	(0. 094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
その他費用	1	0. 009	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0. 005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	29	0. 279	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況
 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2015年3月10日から2015年9月8日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	—	—	10,539	11,000

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表
 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	834,297	823,757	862,144

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11	862,144	97.6
コール・ローン等、その他	20,814	2.4
投資信託財産総額	882,959	100.0

- (注1) 評価額の単位未満は切捨て。
- (注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月8日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝119.42円です。
- (注3) ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11において、当期末における外貨建純資産（9,297,144千円）の投資信託財産総額（9,332,466千円）に対する比率は、99.6%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	882,959,587円
コール・ローン等	20,814,788
ダイワ日本企業外債 マザーファンド2014－11（評価額）	862,144,799
(B) 負債	10,954,216
未払収益分配金	8,495,960
未払信託報酬	2,422,019
その他未払費用	36,237
(C) 純資産総額（A－B）	872,005,371
元本	849,596,091
次期繰越損益金	22,409,280
(D) 受益権総口数	849,596,091口
1万口当り基準価額（C／D）	10,264円

＊当期末の計算口数当りの純資産額は10,264円です。

■損益の状況

当期 自2015年3月10日 至2015年9月8日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	2,492円
受取利息	2,492
(B) 有価証券売買損益	460,572
売買益	460,572
(C) 有価証券評価差損益	1,844,895
(D) 信託報酬等	△ 2,458,256
(E) 当期損益金（A+B+C+D）	△ 150,297
(F) 前期繰越損益金	31,055,537
(G) 合計（E+F）	30,905,240
(H) 収益分配金	△ 8,495,960
次期繰越損益金（G+H）	22,409,280

- (注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。
- (注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
- (注3) 収益分配金の計算過程は13ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金（税 込 み）	100円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

《訂正のお知らせ》

作成対象期間の末日が2015年3月9日の交付運用報告書および運用報告書（全体版）につきまして、「1万口当りの費用の明細」の表の「項目の概要」における次の記載にて下線部が不要でした。お詫び申し上げますとともに、下線部を除いて読み替えくださいますようお願い申し上げます。

「期中の平均基準価額（月末値の平均値）は10,266円です。」

ダイワ日本企業外債マザーファンド 2014－11

運用報告書 第2期（決算日 2015年9月8日）

（計算期間 2015年3月10日～2015年9月8日）

ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11の第2期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等（劣後債を除きます。以下同じ。）に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。 ②運用にあたっては、以下の点に留意します。 イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組入れられるわけではありません。 ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。 ハ. 債券の格付けは、取得時においてＢＢＢ格相当以上（Ｒ＆Ｉ、ＪＣＲ、Ｓ＆Ｐ、フィッチのいずれかでＢＢＢ－以上またはムーディーズでＢaa3以上）とします。 ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。 ③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

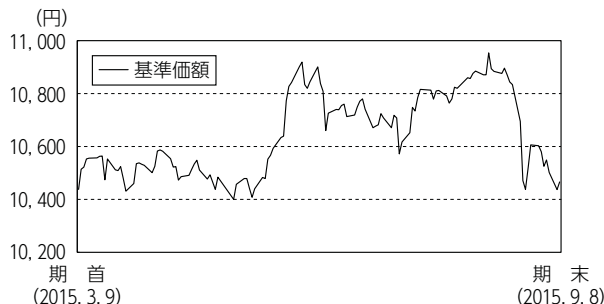
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	債券先物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率		
(期首) 2015年 3 月 9 日	円	%	%	%
3 月 末	10, 438	—	97. 2	—
4 月 末	10, 535	0. 9	97. 1	—
5 月 末	10, 438	0. 0	96. 8	—
6 月 末	10, 842	3. 9	98. 1	—
7 月 末	10, 677	2. 3	98. 0	—
8 月 末	10, 820	3. 7	97. 8	—
9 月 末	10, 603	1. 6	98. 1	—
(期末) 2015年 9 月 8 日	10, 466	0. 3	98. 2	—

(注 1) 騰落率は期首比。
(注 2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
(注 3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
(注 4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,438円 期末：10,466円 騰落率：0.3%

【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する外貨建て債券に投資を行ない、利息収入を中心に収益を積み上げた結果、基準価額は値上がりしました。

◆投資環境について

○海外債券市況

米国の国債金利は低下しました。ユーロ圏の金利上昇や米国での大量の社債発行などを背景とした債券市場の需給の悪化等から米国債券市場は一時金利上昇しましたが、その後は原油安によるインフレ期待の低下や中国の景気減速懸念などから金利低下基調となりました。

日系企業の外貨建て債券については、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は全般的に拡大したものの、利回りは銘柄によってまちまちな動きとなりました。

○為替相場

米国の利上げ期待の高まりなどからいったん米ドル高が進行しましたが、その後は中国による人民元の基準値切下げから世界経済への懸念が高まり、リスク回避の動きから円が買われる展開となりました。期首と比較すると米ドルは対円で下落となりました。

◆前期における「今後の運用方針」

米国債については、小幅な金利上昇を見込んでいます。利上げ期待が金利上昇要因となる一方、ユーロ圏の量的緩和が開始される中、相対的に利回りの高い米国債への需要が強まる可能性は高く、金利の上昇幅は抑えられやすいと考えています。日系企業の外貨建て債券については、安定的な信用力を背景にスプレッドは縮小しやすい展開を想定しています。

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

◆ポートフォリオについて

日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、流動性が高く、利回りに妙味のある金融セクターを中心としたポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

今後も、主として日系企業の米ドル建て債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持します。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 (1)
合 計	1

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

■売買および取引の状況
公 社 債

(2015年 3月10日から2015年 9月 8日まで)

			買 付 額	売 付 額
外国	アメリカ	社債券	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
			—	2,238 (—)

(注 1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
(注 2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
(注 3) 社債券には新株予約権付社債券（転換社債券）は含まれておりません。
(注 4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄
公 社 債

(2015年 3月10日から2015年 9月 8日まで)

当 期			期	
買 付		金 額	売 付	
銘 柄	金 額	千円	銘 柄	金 額
		千円	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The (日本) 3.25% 2024/9/8	273,590 千円

(注 1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
(注 2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

作 成 期	当 期				末			
区 分	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	うち B B 格 以下組入 比 率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦貨換算金額			5 年以上	2 年以上	2 年未満
	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	76,107	76,705	9,160,169	98.2	—	26.1	65.6	6.4

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。
(注 2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注 3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(2) 外国（外貨建）公社債（銘柄別）

区 分		当 期			末			償還年月日
		銘 柄	種 類	年利率	額 面 金 額	評 価 額		
						外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ	Mizuho Bank Ltd	社債券	3. 6000	%	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	2024/09/25
	Mizuho Bank Ltd	社債券	1. 7000		5, 000	5, 065	604, 898	2017/09/25
	Mizuho Bank Ltd	社債券	2. 6500		3, 000	2, 998	358, 062	2019/09/25
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	2. 2500		1, 000	1, 010	120, 653	2019/09/25
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	2. 2500		2, 500	2, 493	297, 776	2019/07/11
	Mitsubishi UFJ Trust & Banking Corp	社債券	1. 3500		4, 000	3, 979	475, 215	2017/07/11
	Chiba Bank Ltd/The	社債券	2. 4500		5, 000	5, 032	600, 975	2019/10/16
	Suntory Holdings Ltd	社債券	2. 5500		1, 000	1, 011	120, 745	2019/10/30
	Nissan Motor Acceptance Corp	社債券	2. 5500		7, 000	7, 040	840, 763	2019/09/29
	Sumitomo Mitsui Trust Bank Ltd	社債券	2. 3500		2, 000	2, 022	241, 522	2019/03/04
	ORIX Corp	社債券	1. 8000		3, 000	2, 991	357, 260	2018/03/28
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社債券	3. 7500		1, 000	1, 030	123, 119	2017/03/09
	American Honda Finance Corp	社債券	2. 0790		3, 000	2, 978	355, 716	2019/11/05
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	1. 6000		2, 000	2, 002	239, 148	2018/02/16
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	2. 4500		2, 000	2, 017	240, 896	2019/01/10
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	3. 9500		3, 000	3, 167	378, 243	2023/07/19
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社債券	2. 8500		1, 000	999	119, 396	2021/09/08
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社債券	3. 2500		2, 800	2, 777	331, 747	2024/09/08
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社債券	1. 4500		5, 000	4, 992	596, 258	2017/09/08
	Mizuho Bank Ltd	社債券	3. 5000		1, 000	1, 016	121, 374	2023/03/21
	Nomura Holdings Inc	社債券	2. 7500		10, 000	10, 151	1, 212, 268	2019/03/19
	Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd	社債券	2. 0000		3, 500	3, 506	418, 722	2018/02/28
	Mitsubishi Corp	社債券	2. 8750		1, 000	1, 028	122, 767	2018/07/18
	Mitsubishi Corp	社債券	3. 3750		7, 307	7, 391	882, 636	2024/07/23
合 計	銘柄数	23銘柄						
	金 額				76, 107	76, 705	9, 160, 169	

(注 1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注 2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

ダイワ日本企業外債マザーファンド2014－11

■投資信託財産の構成

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	9,160,169	98.2
コール・ローン等、その他	172,297	1.8
投資信託財産総額	9,332,466	100.0

- (注1) 評価額の単位未満は切捨て。
- (注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月8日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝119.42円です。
- (注3) 当期末における外貨建純資産（9,297,144千円）の投資信託財産総額（9,332,466千円）に対する比率は、99.6％です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2015年9月8日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	9,332,466,929円
コール・ローン等	91,407,511
公社債（評価額）	9,160,169,317
未収利息	80,559,069
前払費用	331,032
(B) 負債	—
(C) 純資産総額（A－B）	9,332,466,929
元本	8,916,776,554
次期繰越損益金	415,690,375
(D) 受益権総口数	8,916,776,554口
1万口当り基準価額（C／D）	10,466円

- * 期首における元本額は9,376,223,372円、当期中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は459,446,818円です。
- * 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2014－11 8,093,018,863円、ダイワ日本企業外債ファンド（為替ヘッジなし）2014－11 823,757,691円です。
- * 当期末の計算口数当りの純資産額は10,466円です。

■損益の状況

当期 自2015年3月10日 至2015年9月8日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	118,979,344円
受取利息	118,979,344
(B) 有価証券売買損益	△ 81,775,845
売買益	31,824,090
売買損	△ 113,599,935
(C) その他費用	△ 493,459
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	36,710,040
(E) 前期繰越損益金	410,533,517
(F) 解約差損益金	△ 31,553,182
(G) 合計（D＋E＋F）	415,690,375
次期繰越損益金（G）	415,690,375

- (注) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。